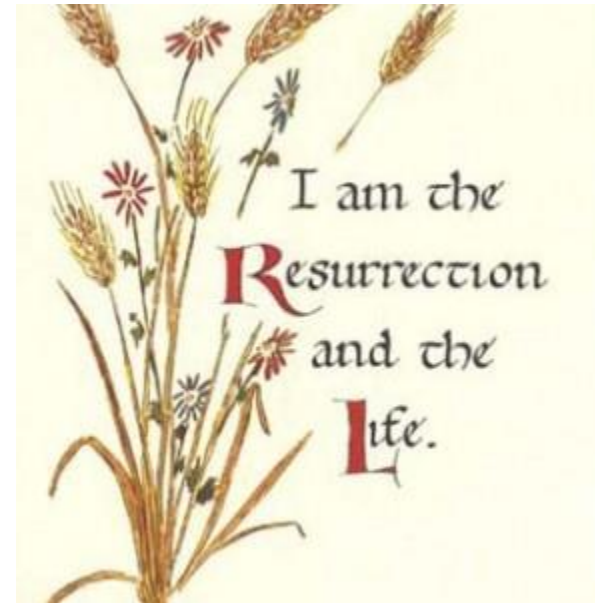


イエスの十字架と復活

2022年4月27日

井田 泉



I. 十字架への道

(ルカ福音書から)

- ・ イエス、3度死と復活を予告する (18:31-)
- ・ エルサレムに迎えらる (19:28-) *
- ・ 神殿から商人を追い出す (19:45-)
- ・ 教えと問答 (20:1-)
- ・ イエスを殺す計略 (22:1-)
- ・ 主の晩餐 (22:14-) **
- ・ オリーブ山で祈る (22:39-) ***
- ・ イエス、逮捕される (22:54-)

* 復活前主日「棕櫚の主日」として記念する。

** 一般に「最後の晩餐」

聖餐式の起源

「これはわたしの体」

「これはわたしの血」(マルコ)

***ゲツセマネの祈り

- ・ ペトロ、イエスを知らないと言う (22:54-)
- ・ 最高法院* で裁判を受ける (22:66-)
- ・ ピラトから尋問される (23:1-)
- ・ 死刑の判決を受ける (23:13-)
- ・ 十字架につけられる (23:26-) **

* ユダヤ人の自治機関。当時、大祭司を議長とする71名の議員で構成され、行政と司法の権限を持っていた。死刑判決を下すことができたが、最終的にはローマ総督の裁断を必要とした。

** 律法違反、神殿冒瀆罪。自らを「神の子」とした。またローマの秩序に対する反逆罪。

II. 十字架

聖書——ルカ福音書から 23:33-

「されこうべ」* と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。

34 「そのとき、イエスは言われた。**「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。**」**」人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。

35 民衆*** は立って見つめていた。議員たちも、あざ笑って言った。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」

36 兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱して、

37 言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」

38 イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった。

.....

* ヘブライ語で「ゴルゴタ」

** 十字架上の七つの言葉の第1

*** イエスを信頼し、悲しむ民衆がかなりいた。

44 既に昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。

45 太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。*

46 イエスは大声で叫ばれた。「**父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。***」こう言って息を引き取られた。

47 百人隊長はこの出来事を見て、「本当に、この人は正しい人だった」と言って、神を賛美した。

48 見物に集まっていた群衆も皆、これらの出来事を見て、胸を打ちながら帰って行った。

49 イエスを知っていたすべての人たちと、ガリラヤから従って来た婦人たち***とは遠くに立って、これらのことを見ていた。

* 至聖所を隔てる幕。
神と人との間を隔てるものが除かれる象徴的出来事。

** 詩編31:6

十字架上の七つの言葉の第7

*** この女性たちは、イエス一行に奉仕し、十字架に至るまでイエスに従い、さらに墓にまで行く。

マティアス・グリュネヴァルト
イーゼンハイムの祭壇画

1510～1515

(フランス東北部アルザスのコルマル近郊。聖アントニオ会の修道院礼拝堂に掲げられた。)

罪状書きは inri

(Iesus Nazareus Rex Iudeorum)

「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」

ヨハネ19:19

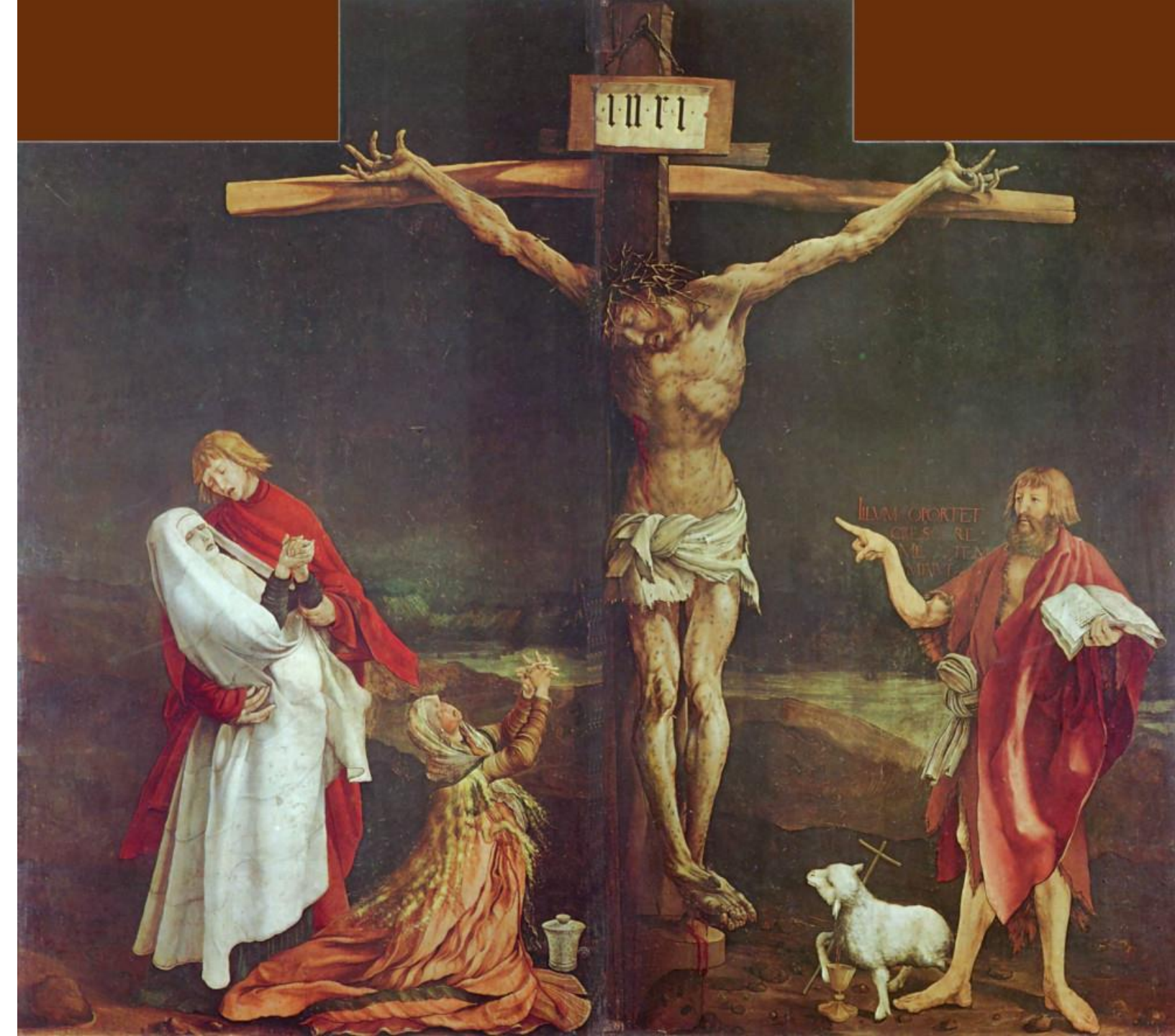
左からイエスの母マリア、ヨハネ、
マグダラのマリア、イエス、洗礼者
ヨハネ

右下の神の小羊の血はチャリス（聖
杯）に受けられている。

洗礼者ヨハネの言葉

Illum oportet crescere, me autem

minui. 「あの方は栄え、わたしは衰
えねばならない」 ヨハネ3:30



♪ 聖歌506

主は命を 与えませり

主は血しおを 流しませり

その死によりてぞ われは生きぬ

われ 何をなして 主にむくいし

<https://www.youtube.com/watch?v=llvGC00Cmtw>

♪ 主の十字架を仰ぐ時

(カトリック典礼聖歌集316 サンパウロ、1993)

- 1 主の十字架を仰ぐとき その苦しみが胸を刺す
悩める人を救うため 進んで苦しみ受けられた
主のいつくしみに導かれ ともに苦しみを分かち合おう
- 2 愛する弟子も逃げ去った そのさびしさが胸を刺す
かよわき人に勇気をと 進んでさびしさ耐えられた
主のいつくしみに励まされ ともにさびしさを分かち合おう
- 3 鞭に茨の冠と 痛々しさに目をおおう
すべては父の御旨だと 進んで痛みを身に受けた
主のいつくしみに促され ともに痛みを分かち合おう

十字架の意味

24 (キリストは) 十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きるようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたはいやされました。

25 あなたがたは羊のようにさまよっていましたが、今は、魂の牧者であり、監督者である方のところへ戻って来たのです。

24 ὅς τὰς ἀμαρτίας* ἡμῶν αὐτὸς
ἀνήνεγκεν

ἐν τῷ σώματι αὐτοῦ ἐπὶ τὸ ξύλον,*
ἵνα ταῖς ἀμαρτίαις ἀπογενόμενοι
τῇ δικαιοσύνῃ ῥησώμεν,*
οὗ τῷ μώλωπι ῥῆϊάθητε.*

25 ἦτε γὰρ ὡς πρόβατα ῥηλάνόμενοι,
ἀλλ' ἐπεστράφητε νῦν ἐπὶ τὸν

ペトロの手紙一 2:24-25

III. 復活



「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。」

あの方はここにおられない。復活なさったのだ。」

(ルカによる福音書 24 : 5, 6)

「しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。イエスが死に支配されたままでおられるなどということは、ありえなかったからです。」

使徒言行録 2:24

「わたしは復活であり、命である。」

ヨハネ 11:25

